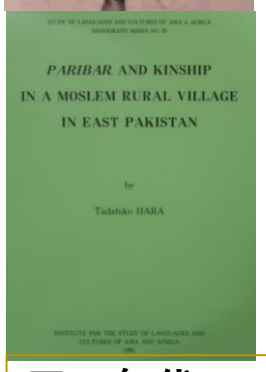
50年後に振り返る南アジアの農村社会
－原忠彦教授の民族誌再訪（AA研の共同研究課題から）

共同研究代表・外川昌彦　　共同研究員・澁谷俊樹

■目的

・原忠彦（1934-1990）によるバングラデシュ農村社会の民族誌を再訪
・50年経た現在の農村社会の変容を調査
・地域社会の視点から南アジア世界の多様な変化とらえる手掛かり

AA研共同利用・共同研究課題「南アジアにおける ムスリム社会の民族誌的研究」（期間：2018-2020年度）



■文化人類学者・原忠彦

・日本の南アジア・バングラデシュ研究の草分け
・1962-4年　チッタゴン県ゴヒラ村で農村調査
・博士論文 *“Paribar and Kinship in a Moslem Rural Village in East Pakistan”*（オーストラリア国立大学）

■東パキスタンからバングラデシュへ

・1971年　パキスタンから独立
・当時人口約5千万人 ⇒ 現在約1億6千万人
・地域社会の多様な変化
・南アジア世界とり巻く環境の様々な変化

かつて原教授が滞在した民家

国道から望むゴヒラ村

■60年代のゴヒラ村・シクダル家

◆男女隔離の原則パルダー
・イスラームの慣習
・パルダー付沐浴場
・村のムスリマは他所の男性の眼に触れぬよう配慮。他所の男性が来たら隠れる。外出時は肌隠す
・男性も、道中前から女性が来た場合女性に隠れる時間与える配慮
・原教授、女性に関する調査に苦労ヒンドゥー女性をアシスタントに彼女を介してムスリマの話を聞く

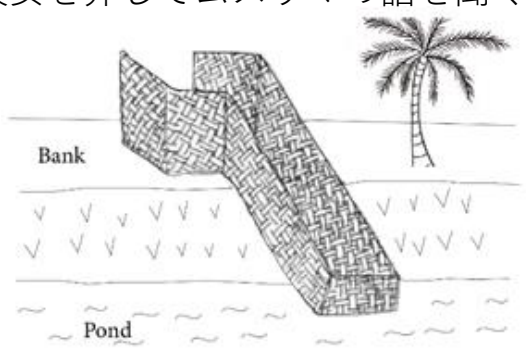


Fig. 2. Bamboo Fence Constructed in a Pond

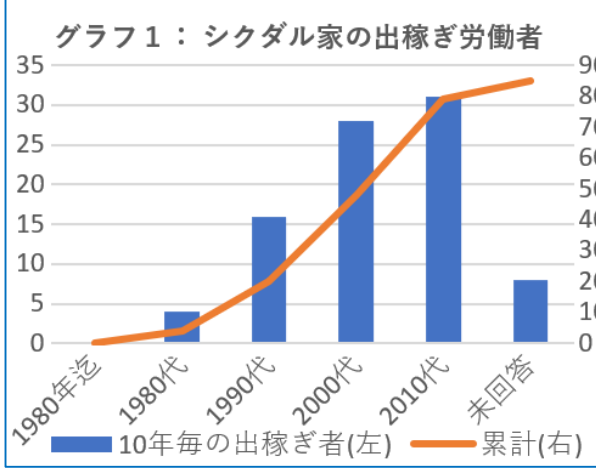
◆農業労働依存度高
・舗装されない道路、村の周囲は田畑
・シクダル家人口216人（男性126人、含村外居住者）
・村住15歳以上男性29人中農業従事男性 11人

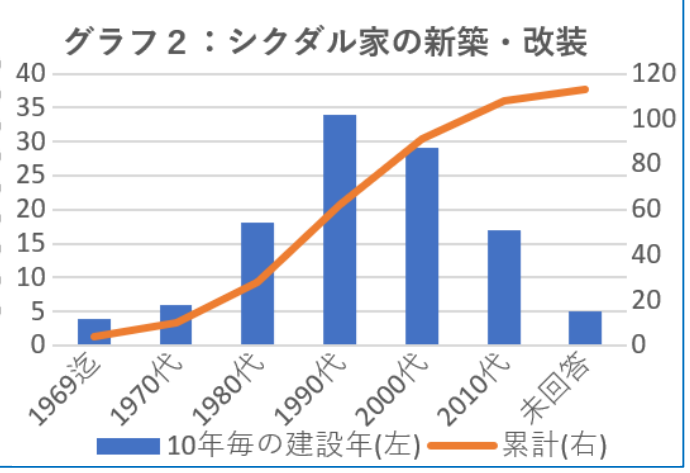
■今日のゴヒラ村・シクダル家

◆パルダー
・男性の前でブルカ着ない女性たち、直接会話可能な女性たち多
・男性調査員に決して姿現さぬ女性も居合わせた近所のブルカ着ないムスリマ介し、中にいる女性に話を聞く

◆出稼ぎ労働者の増加と脱農業
・舗装された国道沿いの村
・田畑ほぼなく、林や家屋へ
・農業労働者 人口666人（含村外居住）中55歳以上の3人
・1980代以降　87人が国外or国内で出稼ぎ労働（グラフ１）
　UAEなど中東産油諸国
　※ シクダル家からの女性の出稼ぎ人ゼロ
・1990代以降　従事する職種多様化
・出稼ぎ人の送金による村の家の新築（グラフ２）
土地所有、教育程度、結婚、世帯の通電と出稼ぎ労働経験に相関

路地から左の池に延びる女性用の沐浴場（パルダー付）煉瓦・コンクリ製に改装





■シンポジウムの記録

●国際ベンガル学会でのパネル報告：2018年1月26日
“Remembering Village after 50 Years: Reconsidering an Ethnography by the late Professor Tadahiko Hara”, 5th International Congress of Bengal Studies, Jahangirnagar University, Bangladesh （5人の報告者、2人のコメンテーター）

●日本ベンガルフォーラムでのシンポジウム：2018 年 6 月 24 日
東京外国語大学・研究講義棟115教室にて（4人の報告者、谷口晋吉一橋大学名誉教授、石井溥AA研元所長、原教授のご子息の挨拶）

●バングラデシュ・ダッカでの国際シンポジウム：2019年10月19日
“International Symposium: Kinship and Family in a Muslim Village in Bengal: Revisiting an Ethnography by the late Professor Hara Tadahiko after 50 Years”, Independent University, Bangladesh (IUB) （7人の報告者、7人のコメンテーター、4人の司会者と2人のディスカッサント）

※本報告の資料の一部は、科研費(19H00554; 18KK0024)の助成を受けている。